

# 『1日1話、読めば心が熱くなる 365人の仕事の教科書』

藤尾 秀昭(著)  
致知出版社  
(2020/11)  
2,585円

新年からぜひ読み始めていただきたい一冊。1日1話読むことで、仕事への姿勢を正してくれること間違いなしです。



## 【感想】

本日ご紹介する一冊は、月刊誌「致知」のインタビューや対談記事、致知出版社が発行する単行本の中から、著名人の仕事の心得を抜粋し、再構成したものです。

稲盛和夫氏や柳井正氏といった有名経営者だけでなく、王貞治氏、佐渡裕氏、羽生善治氏、道場六三郎氏、木村秋則氏(りんご農家)など、多様なジャンルの方が365人登場しています。

1話分は5分程度で読めるボリュームですが、有名、無名を問わず、どの方の言葉からでも、「人としてのあり方」「感動」「生きる智慧」「挑戦への勇気」「仕事への姿勢」など気づきを得ることができ、日々の活力になります。

日々、どのような言葉に触れていくかということは大事だと思います。

経営者のみならず、年齢問わず社員の皆さんにも読んでいただくと、良い教育になる一冊です。

## 【以下引用】

・渋沢栄一は三つの「魔」を持っていた。吸収魔、建白魔、結合魔です。学んだもの、見聞したものをどんどん吸収し、身につけてやまない。物事を立案し、企画し、それを建白してやまない。人材を発掘し、人を結びつけてやまない。普通にやるんじゃない。大いにやるものでもない。とことん徹底して、事が成るまでやめない。そういう「魔」としか言いようのない情熱、狂気。

・音楽の世界では、才能や運っていうのは確かに一つの大きな要素かなと思います。ただ、これは僕の大好きなプロゴルファーの言葉なのですが、「奇跡を起こす方程式」が存在すると。才能、運、努力。これらは足し算だが、掛け算になるものが一つだけある。それは感謝力だと。例えば何でこんな大事な演奏会の日に雨が降るんだとか、何でこんな音響の悪いホールで本番をやらなきゃいけないんだと思ったら、感謝力は0.7になってしまい、せっかくそれまで足してきた才能も運も努力も全部マイナスになる。(指揮者 佐渡裕)

・ある問題について、地球上で最も必死に考えている人のところにアイデアの神様は降りてくる。

これは私の実感です。(ユー・エス・ジェイ元 CMO 森岡毅)

・社員には、エネルギーを出し切れ、と言っています。人間的エネルギーというものは使えば使うほど増殖されるものなんです。僕自身、人間的エネルギーは使えば減るし、減った分を補充するには、それなりの時間がかかると思っていた時期もありましたが、そうではない。充電するには時間などかからないし、使えば使うほど、充電されるものなんです。(セコム会長 飯田亮)

古田土会計の教育は「技術教育」だけでなく「人間性教育」に重点を置いています。致知出版は人間学をテーマにしているだけに、人間性教育において素晴らしい内容です。